

優秀賞

## ぼくの大切なカブトムシ

茨城県 友部町立北川根小学校四年 村田 恭輔

「なんだこれ。」

七月の初めのことです。ぼくが、よう虫から育てているカブトムシの飼育ケースをのぞいてびっくりしました。先に、成虫になっていたカブトムシとはちがつて、そのカブトムシのオスは、とても小さく、つのと頭が左に曲がっていて、右がわの羽は、へん形していておながが見えるじょうたいでした。ぼくは、毎年よう虫からカブトムシを育てています。だけど、こんなカブトムシが生まれてきたのは、初めてでした。とてもびっくりしました。

このカブトムシは、まっすぐ歩く事もできず、とぶこともできず、土にもぐれないじょうたいでした。ぼくは、とてもこのカブトムシがかわいそうに思いました。

お母さんが

「ひどいけどだから、長く生きないかもね。」

と言っていました。ぼくは、いっしょうけん命にせわをしてあげようと思いました。

このカブトムシが他のカブトムシとケンカしてきず付けられないように一ぴぎだけの飼育ケースにうつしてあげました。少しでも元気になって長生きしてほしいと思って、ロイヤルゼリーやパワー強化ゼリーやスタミナゼリーをあげてみる事にしました。毎日あげているうちに、いっぱい食べなくなりました。このカブトムシは、少しずつ元気になってくれました。じょじょに土にもぐれるようになりました。その時、ぼくは、とてもうれしかったです。

どうして、こんな形で成虫になったか考えました。よう虫のときにさわったのがいけなかったのかなという考えました。飼育ケースでかわずに、自ぜんの土の中で育ていたらこんな形で生



まれてこなかったのかもしれないと思いました。そしてこういうカブトムシも生まれてくるんだということを初めて知りました。

八月の中ごろ、このカブトムシはとうとう死んでしまいました。とてもかなしかったです。少ししか生きられなくてかっこいいカブトムシではなかったけれど、ぼくにとっては、とてもかわいいカブトムシでした。